

自由連合

Libera Federacio

号外

1972年
7月1日

姫路市龜山354

自由連合社

電話 大阪1264

なぜつづぶすのか

山川信

1 自連の編集発行は、それほどむずかしいものではない。編集社員会議のとき「このままでは」といって50号位までは出るやろ」とぼくがいったら、黒川くんはさすが、60号70号でも出る、といった。

それほど、一応のレールにのっているのである。つまり、ある意味で安定している。それはまた、紙面の固定でもある。そして実際的には、新しい創造的な紙面づくりへの意欲や冒険、アイディアを欠乏させ、又、外からの刺激的・変革的要素を見のがさるものとなっている。それゆえ、自連はなかなかつづぶれないというわけである。

2 その反面、編集長兼小使の黒川君は、しきりにしんどいという。ぼくは「そんなことはない。こんな楽しい仕事はない」と反言する。しかししんどいしんどいだろう。がり切りから刷り、発送という表面だった仕事以外に、未信資料類の事務的整理をもふくめると、手伝ってくれる人があるといつても大へんな肉体的労働である。

だが、その労働がつくり出すよろこびとふかきむすびついているとき、それは「しんどい」が楽しいのである。その楽しさが次第に稀薄化してきていることが、しんどさの真の問題なのである。

3 自連をつづけるのはやすく、つづすのはむずかしい。つづし方、そしてつづぶれ方がむずかしいのである。いまだのようにつづすがを考えるとき、ぼくにとっては自連創刊のときは何となくだったろうと思う。

4 そんな苦労してなんぞつづすの

やーと問う人がある。しごく常識的に言えば、「持ったものを手放さねば新しくはつかめないうへ」オムね号のことのために「である」といふ。しかし今は、新しくつかむなんてことはあたまわし。どうつづすかで全く頭をかかえているわけだ。

★つづし方の創造なんてことができるか。できないか。

社告 40号の発行は七月末の予定

私達は自連をつづす

私達は自連をつづします。なぜつづすのか——自連の総括——を、呈示すべき四〇号は諸般の事情から大幅に遅れ、七月末になります。三七号での小川信の提案以来、その理由を殆んど明らかにせぬまま、つづすことだけを言ってきました。ために、うるさすぎる、つづしたさや勝手につづせ、とも幾人かの読者から言われましました。今回の小川信の文章で、少しは理由が明らかになったと思えます。

自連は個人の趣味で始められたのではない。個人の趣味で続けられてきたのでもない。つづすのもやはり個人の趣味ではできないでしょう。それに、その時君は社員である。なにと云ってききました。一定の役割を果たしてきて、との声もありました。いやになったからやめる、というわけにもいかんでしょう。

そして、決していやになったからやめたのではありません。確かにしんどい。だが、そのしんどさは、自連のタテマエと実態とが離れてしまっているへそして固定している。ことからくるものです。タテマエと違って、大儀名分というほどの大それたものでなく、もっと些細なチツポケな……

自連の総括はつづすことによって

★つづしたら何がそこにあるか。そしてこのころか。すると何が起るか。起こらぬか。

★残務整理の積極性とは何か。★残務整理の完璧さはどのようにしてつくられるか。

求め。会社・家等の破産・清算整理その他一切の破壊行為と後始末についての熟練・経験者。七月八月中、薄給酷過す。

しか出ない。とするなら、どうつづすのか。

40号

つづす過程としての四〇号に原稿を書き下さい。

Ω 内容不問(自連のこと。自連とあなたのこと。一般記事歓迎——展開を「真なる自由連合を具体化する契機」としたい)

Ω 長さは、一応脚字話10枚以内

Ω 締切は、七月二〇日、自連大阪着(→大阪市旭区高殿郵便局留)

介錯人

即号製作も含めて、つづすことに加わって下さい。

さい。死に水をとりに、或いはトドメをさしに、大阪まで来て下さい。道連れにされる可能性あり。熱風吹き荒れる中で薄給酷過します。

残務

カネ、名簿、資料、アンケ、必あります。特にカネのこと。自連は自転車操業。毎号なんとかが足りていても、一旦うちきると大赤字。先の分まで払い込んで

いる人はいるわカネはないわ、です。連絡下さい、惜しいけどカンパするとか喜んでカンパするとか……。アングをつくらっている余裕ないので、切手(それ)だけで乞食救済。カネのこと以外でも、ドンデン書いて下さい。(文責・黒川信)

無任感

7月4日 5:30pm
大阪市内(西淀川区)の
回りのノロノロな二時間

読者からの手紙

和田喜太郎

こんなことをチラツと考えるにしました。

やめるならカッコヨク

毎号の「自連」

「自連」をつぶすつづぬの判断は、編集に当てるメンバーの方たちにおまかせします。これまでも紙上でも書かれてきましたし、それを讀んでる人たちの反応も集めてることでしようし、ここらでさっぱり決着をつけていいと思ひます。つづすなら「カッコヨク」つづぬなら「カッコヨク」つづぬ、そして今後、一切そんなぐちっぽいことを口にしない……というのがいい。つづすな？という読者がいたとしても、しよせん読者の願望にすぎない。編集メンバーがつづす気でおれば、どないもしやあないのである。

僕の場合、ともかくも「平連運動」にかかわり續けて来たわけだけど、目標とするベトナム反戦平和という課題は、やむどころか、ますますはげしくなつてきています。とてもじゃないが運動をやめるわけにはいかん。これから「ガンバ」ラナクチャと思つてゐる。ミニコミを發行することも、運動をすすめるための一つの手段と考へてゐるから、従つてやめるわけにはいかな。『自連』にくらべればはるかにちつぽけで貧弱ですが、これまでも『自連』から色々「マエム」キに吸収できたことを感謝してゐる次第であります。

そういうわけで、僕と自連とのかわりには、どっちかというところ、同業者的な連帯みないなもんだつたと思ひます。僕らからみれば、自連さんなんか、「大手」に「ミニ」セという感であります。まあ「大手」さんには「大手」さんなりの御事情も色々ありのようだ、というわけですね、早いはなし。そんなわけでありまして、零細企業の一人親方であり、同時に「その時あなたには社員」の一人といひましては、「自連」がつぶれるとなると、全く痛くもかゆくもないことではなく、それなりにやっぱり打撃なんでありまして、これも時の流れというものかも知れませんが、「イカン」というか「ガッペン」なことでもあります。そして、この次第はくわしくは知りませんが、

自連運動会

あれだけのもの、日々發行持續するのは、僕なんか一人でやれといわれたらぞーッと思います。ものすごしんといやろな、と思ひます。しかも發行發送部数も多い。やめようという原因はなんかよくわからんわけですが、僕なりに「カッコヨク」する、やっぱりあれだけのものつづけようと思つたらくたびれすぎるんじゃないかなと思ふ。編集なんかやつてる人、ちよとマジメすぎるんじゃないかな。しんどかつたら休むとか、適当にさぼるとかしらいいし、ゼニがかかつて赤字やつたらゼニを送らん奴は送るのをやめて「タイ」とばかりにまとめるとか、原稿が集まらんから半年ぐらゐ集まるまで發行を休むとか、事務仕事に手が足らんんだら読者を差別してしようもないとこには送らんとか、まあ早いはなし、イキナキの方法はいくらでもあると思ふわけですね。

そういうわけで、万が一どうしてもみんながつぶすというのなら、おれ一人でもやつたという人がいたら、その人にやつてもらふとしたら、これまでの規模ではしんどいのが当然だから、ぐんと縮小してそれなりに發行体制をつくりがえてやりやすい形にしていったらいいと思ふわけですね。それからいま一つは、れきり誰もちやる人がいなく、いよいよつづしたとした場合、これまでの読者網というものの、そのままにしておくのもつたないやうに思ひます。『自連』製作に直接参加した人たちは、それなりにミニコミ製作の修練をつんだことと思ひますし、われと思ふ人は独立してミニコミ發行をやる人があつてもいいし、空白になつた読者網を有効に生かして読者拡大の手がかりにしてもいいのじゃないかな。

ひっくりめていへば、「やめる」つづすといひなざるのなら、それれいいと思ひます。僕は創刊以来の読者であるわけですが、創刊の時、創刊發行に當つた向井さんなどの発想もあつて、それに共鳴する人たちが集まり、その主旨とか発

想にそつて今日まで發行がつづけられてきたわけですね。そういうことでは、今あらためて、創刊に當つた人たちの意向をふりかへてみることは大事だと思ふし、その中で「やめてもいいじゃないか」といわれる向井さんの意向は、やはり重要な意味をもつてゐると思ひます。廢刊するとなると、当然、出資の時、問題意識とか發想とかをあらためてたしかめ、一応現在廢刊という現実への「スジミチ」を通してほしい。早いはなし、やめるのなら「カッコヨク」やめてほしい。何かうしろめいたうらめしいようなやめ方ではなく、デント開きなおつて廢刊にする方が、内外の状況からして得策であると思ふのです。あらためて初期の『自連』をひっくりかえしてゐる余裕はありませんけど、それなりに『自連』は貴重な役をつとめた「カッコヨク」しています。

北九州でミニコミを作ろうか

……北九州でミニコミを作ろうかと思ひ立ちました。初めは楽しいものでやつていこうと思ひます。ノンポリを組織して、北九州にある他のミニコミと手を組んで、市民運動にしたいという甘い考えです。

自連廢刊については、今の私は、みっともなく續けることのほうがより大切であると痛感してゐます。持續の上にたつて初めてなし得ることの方が、廢刊という「カッコヨク」より大事なのではないでしょうか。もちろん、「やめないでほしい」と書いてくる人々の中には、自連を讀むことによってのみ、自分が反体制であることを確認するだけで、何もなしな人がいることも確かです。しかしそれでもなお、みっともなく續けることを提案します。(E・H)

やめるならカッコヨク

やたらと「自連」廢刊するのしないのとつるさすぎる。くどすぎる。やめるならさつさとやめろ。

ところで、俺、先日、10号分500円払つたのだけれど、ちよと質問させてくれ。俺の払つた500円もの大金の行方、廢刊になつたらどうなるのか、教えてくれ。ちゃんと答えてくれよ。(E・S)